

専攻科「児童文化研究」における幼児向け絵本のブックトークの実践研究

The study of book talk learning children's culture through children's picture books

新井 悦子

I はじめに

子どもの心や言葉を育む児童文化財の中でも絵本は幼児にとって最も身近なものである。また保育者を目指す学生にとっても絵本は手に取りやすく子どもたちと共有しやすい。本学では筆者が担当となり、保育学科1年生の科目「子どもと言語」で、絵本の基本的な作りやどのような絵本があるかを学び大勢の子ども達の前での読み語りを習得する。授業の終盤に集大成として7人ほどのグループを作りお話会のプログラムを作成（手遊び、絵本、絵本以外の児童文化財を取り入れた20分ほどの内容）し、実践している。では保育学科を卒業した専攻科保育専攻の学生には、絵本を入口として児童文化の学びを深めるためにはどのような実践が必要だろうか。今回は保育学科で取り上げたグループでのお話会とは異なる切り口として、学生一人ひとりが幼児に向けた絵本のブックトークを取り入れ、より絵本を広く、深く、学ぶことにした。なお、幼児に向けてのブックトークの発表を想定しているが、実際の授業では筆者と他の学生に向けての発表を行った。

II 研究の目的と方法

専攻科保育専攻1年生5名が科目「児童文化研究」での絵本を中心とした学びの集大成として学生一人ひとりがブックトークを実施した。ブックトークとは何かという点については、次の項に記す。学生自身が、ブックトークのテーマを考え、テーマに沿って多くの絵本を知り、読み聞かせだけでなく本と本との間子どもたちに伝わるつなぎの言葉を考えるという発表に至る準備段階が学生の学びになるのではないかと考えた。記録を残し、ブックトークが児童文化研究として有効となるよう、学生の学びを中心に考察を進める。

III 研究の結果

1. ブックトークとは何か

ブックトークとは文字通り、①本について話す事であり、②本と人を結びつけるため、テーマに沿って、数冊の本を順序よく紹介することである。その意義・目的は、①本に親しむことの少ない子どもに読むきっかけを与える、②さまざまな種類の本を紹介することで本の選択の幅を広げるものである。

日本ではおもに小学校などで教師、学校司書、図書ボランティアが本や図書室に親しんでもらうために行うことが多い。1回のブックトークで5～7冊程度を30分程度で紹介する。今回は専攻の関係から幼児向けという設定である。幼児向けのブックトークの場合は、幼児の集中力や特性（興味をあとに取っておけない。その場で物語を知りたい）を考慮し、テーマに沿った絵本を紹介するのではなく、実際に読み聞かせを行う事が望ましい。手法としては、15分くらいの時間で3冊を読み聞かせし、本と本との間につなぎの言葉を入れる事が大切である。聞き手となる幼児にとってはブックトークという概念はなくお話会ととらえられるかもしれない。

2. 佐世保市立図書館司書佐志純子氏による講義・ブックトーク実演

2020年11月14日（土）、特別講師として佐世保市立図書館の佐志純子氏にブックトークの講義と実演をお願い

いた。佐志氏は長崎県で2人しかいない日本図書館協会の認定司書であり、児童書について大変見識の高い司書である。佐志氏には、ブックトーク作りのポイント、手法を主に幼児（年長）に向けて行う場合の注意点を含めた講義と幼児向けを想定したブックトークの実演をしていただいた。

【佐志氏の幼児向けブックトーク実演】

テーマ くだもの だあいすき

対象者 年長児 所要時間15分

紹介した絵本 ・『まどのむこうのくだものなあに?』 荒井真紀作 福音館書店 2020年
・『とりかえっこ とりかえっこ』 ふくだじゅんこ作 大日本図書 2016年
・『ハンダのびっくりプレゼント』 アイリーン・ブラウン作 福本友美子訳
光村教育図書 2006年

シナリオの組み立て例

①くだもの、みんなすきですか？

おかあさんやお父さんと一緒に買い物に行ったとき、いろんなくだものがお店には並べられていますね。
なにがすき？ すきなくだものあてられるかな？

『まどのむこうのくだものなあに?』を全部読む

②くだものは、切ってみるとまたちがった形や色になりますね。それから、くだものには皮があります。

皮はくだもののおようふくでもあります。その皮をくだものたちがとりかえっこしたらどうなるでしょうか。この絵本で一緒に見てみましょう。

『とりかえっこ とりかえっこ』を全部読む

くだもののおようふくをとりかえるのは、むずかしそうでしたね。

③次に紹介する本は、頭の上でくだものとりかえっこがおこってしまいます。

なにがおこるか、みなさん聞いてくださいね。

『ハンダのびっくりプレゼント』を全部読む

このブックトークのねらい

1. 一番子ども達に聞いてほしい絵本は『ハンダのびっくりプレゼント』

この絵本では、知らない国、肌の色が違う子ども、初めて見るくだものや動物がでてくる。絵本の世界の中から、多様性を自然と受け入れてほしい。自分のアンテナを広げ新しい発見やおどろきを感じてほしい。

一番聞いてほしい絵本を、自然とつなげられる導入の絵本を決める（最初か最後に入れる）。

2. 自然科学を絵本にしているものから、身近なくだものを再確認できるのが『まどのむこうのくだものなあに?』

買い物に出かける実体験と結びつくようなねらいを持つ。

保護者と一緒に買い物に行って、売り場でくだものを見て何かを感じる。保護者との会話につながる。

3. 年長児でも、成長段階は様々なので、どの子どもでも楽しめる絵本を1冊入れる。

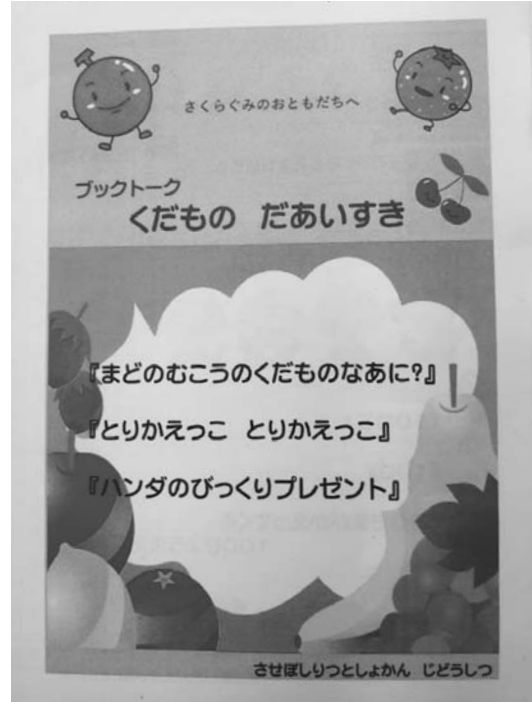
『とりかえっこ とりかえっこ』

周りの子ども達と一緒に楽しい時間を共有できる絵本を入れるよう気がける。

以上、佐志氏作成の文書より



ブックトークを行う佐志純子氏
絵本『とりかえっこ とりかえっこ』
ふくだじゅんこ作 大日本図書 2016年



幼児向けプログラム（佐志純子氏作）



館内児童室の特徴について話す佐志氏と学生

また佐志氏にはブックトークの実演以外にも、図書館内児童室を案内しながら、子ども向けの本の展示の工夫（シールの色分け、棚の高さ、地震の際などの安全面を考慮し棚の上に本を置かない等）についての説明をいただいた。

また児童室奥のおはなしのへやで図書館が定期的に行っているおはなし会や、保健所で生後4か月検診の際にブックスタートとして絵本を渡し、絵本を介しての赤ちゃんと大人のコミュニケーションの大切さを伝えている等の現場の活動状況を聞かせてもらった。

学生たちはこれまで図書館とは「本を探す場所、借りる場所」だというイメージから、子育てを支援、子どもたちの学びを支援する、本と人をつなぐ場であることを強く認識することができた。以下、学生の佐志氏のブックトークについての感想を記す（ブックトーク以外の感想は割愛する）。

【学生の感想】

	感想
学生 A	園では読み聞かせをする時間は限られているし、意図的にこの絵本を知ってほしいなどと考えて読むことは少なく、今回実際に聞いて、「読んでみたい」「次はなんの絵本」などと絵本に興味関心をもって聞いた。 子どもにとって絵本からの影響や学び得ることは多いと思うので、保育者や大人が思いをもって声や言葉を届けていきたいと思った。

学生 B	<p>小学高学年の子どもたちには少し読んでみて後で読んでみたくなるような工夫をし、小学校低学年以下の子ども達には一緒に会話して話を続けたり、次の本に行くための工夫などがとても大切でシナリオを作っておくことが大切だと分かった。</p>
学生 C	<p>ブックトークという言葉が授業で初めて知って、最初はあらすじを伝える感じかなと思っていましたが、想像よりもおもしろく、もっと本を読みたい!と思った。 本を選ぶ時のポイントが自分で届けたい本を読むことと言われていて、幼稚園で読む時に自分が今伝えたいこと、自分の好きな本など、なんとなく、フィーリングで選んでいて、いいのかな?と思う時があったが、今日のお話を聞いて、それでいいんだと思えてよかった。ブックトークでは私は『カラフルモンスター』という本が好きなのでその本をみんなにうまく紹介できるように他の本も選んでいきたいと思う。</p>
学生 D	<p>ブックトークは小学2年生の後半くらいまではすべてのお話を読んだ方が子どもたちが分かりやすいという話を聞くことができとても参考になった。私は子どもたちに絵本を選ぶ時に自分が好きな本を選んで良いのかという悩みがあった。しかし今日のお話では自分が好きな本、子どもたちに伝えたい本を選んでよいことが分かった。ブックトークをする時のポイントの中でどの発達段階でもわかる絵本を選ぶということが印象に残った。私がインターンシップをしている幼稚園は3～6歳児なので今日学んだことを活かして絵本選びをしていこうと思う。</p>
学生 E	<p>初めてブックトークを聞いて、3冊の本がまるで1つの物語のように感じるほど、全体のつながりや流れがスムーズで、さらに1冊1冊の内容が薄れることなく、「次の本は何かな?」とわくわくして、夢中になって見て、聴くことができた。絵本は空いた時間に読み聞かせたり、活動の導入として使うことが多かったが、ブックトークをすることで絵本そのものを活動の中心として、子どもたちと絵本をつなげることができそうだと感じた。今回教えていただいた絵本の選び方やシナリオの作り方を参考にしてオリジナルのブックトークを作って、子どもたちと一緒に楽しみたい。</p>

3. ブックトーク発表に向けての準備（選書・シナリオ制作・発表、読み読みの練習）

12月19日（土）再び佐世保市立図書館児童室を訪れ、発表に向けて選書を行った。あらかじめテーマを決めてきた学生、ノープランの学生、テーマを決めてきたが多くの絵本を見てテーマを変えた学生などさまざまであった。時折、筆者やほかの学生と相談しながら絵本を選んでいった。以下、選書段階から学生たちがどのようにブックトークを組み立てていったかその行程の記録を記す。

学生	参考にした絵本の冊数	選書からテーマの設定の行程
A	15冊	<p>①テーマはノープラン。 ②図書館児童室の展示を見て、干支に関するものか、園で『鬼滅の刃』が流行っていることを思い出し、どちらのテーマにするか迷う。 ③『鬼滅の刃』から、忍者や変身をテーマにする。 ④蔵書検索はせず、本棚から「へんしん」をキーワードに探すと結構あった。</p>
B	15冊	<p>①色をテーマに考える ②『くれよん』シリーズを選びつつ、他の絵本を見つける ③『ドロップドロップ』を選ぶ ④色と物の一致をテーマにする。</p>
C	30冊	<p>①園にある絵本『カラーモンスター』を中心にしたいと考え、色か感情をテーマにしたいと考えた。 ②その2つのテーマで絵本を図書館で探した。色については2,3冊を選んだ。感情については「ママは100めんそう」を見つけて、カラーモンスターでなく、この本を中心に「感情・気持ち」をテーマにブックトークを組み立てることに決めた。</p>


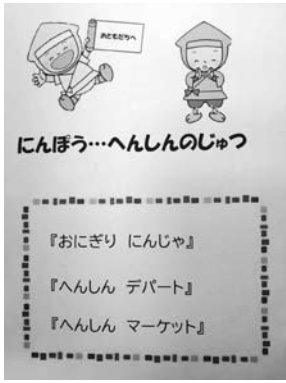
D	20 冊	<p>①『てぶくろ』のどンドン動物が増えるところがおもしろく、数が増える、数、をテーマに考えたい。</p> <p>②図書館で『そらいろのたね』、『どうぶつどうぶつどンドンどンドン』を見つける。</p> <p>③探しているうちに、『ひとりぼっちのタツノオトシゴ』を発見する。 野菜や果物の形を海のものに見立てるおもしろさに気づく。これを読みたい！路線変更。</p> <p>④『じゃない!』（園でも子どもたちに人気なのを知っていた）を図書館で探す。</p> <p>⑤『やさいのかたち』を見つけ、野菜の見え方もおもしろいと思う。</p> <p>⑥「数が増える」と「野菜や果物をほかの形に見立てる」の2テーマで絵本をセレクト。 友人に聞くと、後者を聞きたいという。</p>
E	15～50 冊 (ネットで参考にした数)	<p>①テーマは特に考えておらず、インパクトのある絵本を図書館で見つけそこから発展させていこうと思っていた。</p> <p>②大型絵本『ぐるんぱのようちえん』を知った。しかし大型を一人で読むのはたいへんで大型の必要性もなく、普通版の絵本に変更した。テーマを「仕事」に決定。</p> <p>③園で絵に関心がなく、写真に興味を持つ子がいる。そのため、写真を中心に仕事をテーマにした絵本を探す。なかなかない。ネットでは見つけたが、市立図書館(蔵書検索や棚)にはなかった。おしごとずかんのような本を見つける。</p> <p>④『ほちほちいこか』を見つける。</p> <p>⑤『おしごとなににする?』を見つけ、この本を読みたいと思い、『ぐるんぱ』から変更する。</p>

4. ブックトーク発表


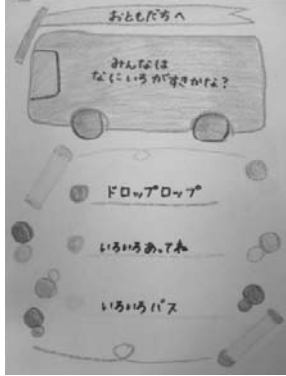
【実施内容】

12月23日に15回目の通常授業(学内)にて、学生によるブックトーク発表が行われた。学生には発表の際にブックトークのねらいと、子ども向けプログラムを提出させた。シナリオの提出は任意とした。


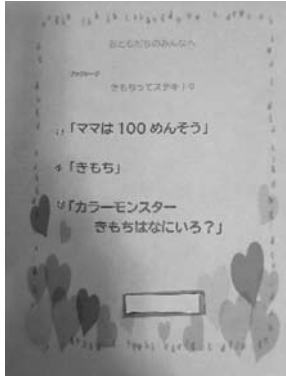
学生 A による発表

プログラム	<p>テーマ にんぼう…へんしんのじゅつ</p> <p>『おにぎりにんじゃ』(右写真) 作 北村裕花 講談社 2014年</p> <p>『へんしんデパート』 作 たかてらかよ ひかりのくに 2013年 絵 浅沼とおる</p> <p>『へんしんマーケット』 作 あきやまただし 金の星社 2015年</p>	 
ねらい	<p>アニメ『鬼滅の刃』がインターンシップ先の園でも流行っていることから興味を持ってもらえるように忍者系の絵本を選んだ。そこから視覚の変化や変身、言葉の面白さを楽しんでほしい。</p>	
シナリオ	<p>『鬼滅の刃』が流行っていますね。今日は『鬼滅の刃』に負けないくらいかっこいい忍者の絵本をもってきました。</p> <p>『おにぎりにんじゃ』を全部読む 今からは忍法変身の術を使ってデパートに行きたいと思います。</p> <p>『へんしんデパート』を全部読む つぎは言葉が変身しますよ。みんな一緒に声に出してみてね。</p> <p>『へんしんマーケット』を全部読む</p>	

学生Bによる発表


<p>プログラム</p>	<p>テーマ みんなは なにいろが すきかな？</p> <p>『ドロップロップ』 作 村山早紀 絵 杉田比呂美 佼成出版社 2009年</p> <p>『いろいろあってね』(右写真) 作 内田麟太郎 絵 本信公久 くもん出版 2002年</p> <p>『いろいろバス』 作 tupera tupera 大日本図書 2013</p>		
<p>ねらい</p>	<p>1. 一番子どもたちに聞いてほしい絵本は『ドロップロップ』。この絵本では子どもたちが絶対に食べたことがあるアメを用いて色と味を一致させるような内容になっている。なので子ども達にアメの色から想像できる味や物などを考えてほしい。</p> <p>2. 『いろいろあってね』からもっといろいろな色に興味をもってもらい、色から物を連想できるようになってほしい。</p> <p>3. 『いろいろバス』はバスから降りてくる物、バスに乗る物がなんなのかみんな考えて、友達と共有してほしい。</p>		

学生Cによる発表

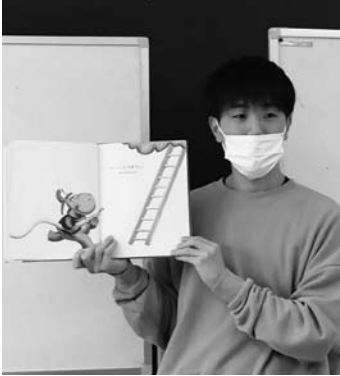

<p>プログラム</p>	<p>テーマ きもちってステキ！</p> <p>『きもち』 作 ジャナン・ケイン 絵 いしいむつみ 少年写真新聞社 2013</p> <p>『ママは100めんそう』 文 パク・スヨン 絵 ジョン・ウンスク 訳 おおたけきよみ 光村教育図書 2019</p> <p>『カラーモンスター きもちはなにいろ?』(上写真) 作 アナ・レナス 訳 大友剛 永岡書店 2018</p>		
--------------	--	--	---

シナリオ	<p>みなさん今どんな気持ちですか？ 楽しいや悲しいという気持ち以外にどんな気持ちがあるのかみていこっか～ 『きもち』を全部読む</p> <p>ノリノリや幸せとかいっぱい出てきたね じゃあ、みんなが大好きなお母さんがいつもどんな気持ちか知ってる？ 実はお母さんのお顔をよーく見てたらわかるんだって！ どんなお顔の時にどんな気持ちか見てみよっか～ 『ママはひゃくめんそう』を全部読む</p> <p>いろんなお顔でいろんな気持ちがたくさん出てきたね じゃあ、次は自分の気持ちを色で表すモンスターがたくさん出てくるんだけど、みんなは何色の気持ちが好きか後で教えてね～ 『カラーモンスター きもちはなにいろ？』を全部読む</p>
------	--

学生 D による発表

プログラム	<p>テーマ これはなににみえるかな？ ～いろんなかたち、いろんなたべもの～</p> <p>『やさいのかたち』 文 真木文絵 写真 石倉ヒロユキ 福音館書店 2018</p> <p>『じゃない！』（右写真） 作 チョーヒカル フレーベル館 2019</p> <p>『ひとりぼっちのタツノオトシゴ』 作 サクストン・フライマン ユースト・エルファーズ 訳 千葉茂樹 小峰書店 2002</p>	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達に1つのものでもいろんな見方ができることを知ってほしい、という思いから『ひとりぼっちのタツノオトシゴ』を選んだ。 ・『じゃない！』は子どもたちが一見食べ物に見えるが実は違うものであるという意外性から多様な視点があるということを伝えたいと思った。 ・『やさいのかたち』は子ども達が見たことがある身近なやさいにはいろんな形があることを知ってもらいたいと思い、選んだ。また写真なのでどんな子どもも興味を持って見る事が出来ると思ったからである。 	

学生 E による発表

<p>プログラ ム</p>	<p>テーマ おおきくなったら なになになる？</p> <p>『わくわく しごと ずかん』 小学館 2008</p> <p>『ぼちぼち いこか』(右写真) 作 マイル・セイラー 絵 ロバート・グロスマン 訳 いまえよしとも 偕成社 1980</p> <p>『おしごと おしごと なににする？』 作 なとりちづ 福音館書店 2018</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>ねら い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ お仕事の話を通して、保護者のお仕事に興味を持ち保護者との会話につながる。 ・ 自分の将来について考えることで、夢や将来への希望、向上心を育む。 ・ 将来の夢が決まっている子にも、いろいろなお仕事があることを知ってもらい視野を広げてほしい。
<p>シナ リオ</p>	<p>①みなさん、こんにちは！ わたしは長崎短期大学というところから来ました。名前は〇〇です。 よろしくお願いします。 実はお兄さんはお昼まで幼稚園で先生をしています。そのあとに学校に行ってお勉強をしているの だけど、みんなはお父さんやお母さんがどんなお仕事をしているか知っている？ 今日、お兄さんがもってきた本にはたくさんのお仕事が出ています。みんなのお父さんやお母さ んのお仕事も出てくるかもしれないから、よく見てね！ 『わくわく しごと ずかん』数ページを見せる たくさんのお仕事が出てきたね！ 他にもたくさんあるから、あとで見てね！</p> <p>②みんなは、なにになりたいと思った？ お兄さんはやっぱり保育士さんが楽しそうだなって思ったよ！ みんなは？ じゃあ、カバさんは何になりたいと思う？ 『ぼちぼち いこか』全部読む カバさん、いろいろなお仕事していて、おもしろかったね！ どんなお仕事が出てきたか覚えてる？ カバさんは『ぼちぼちいこか』ってまだやりたいものを決めていないみたいだったね。</p> <p>③さあ、最後はみんなと同じ、年長さんのお友達が出てくる本だよ！ 絵本の中のお友達は何になりたいと思っているのか、よく見ていてくださいね。 『おしごと おしごと なににする？』全部読む みんなどうだった？ お友達のやりたいものがたくさん出てきたね！ あと最後に先生がつくし君のやりたい夢を応援していたね。 みんなの、お父さんやお母さん、幼稚園の先生もみんなのやりたい夢を応援しているからみんなも 大きくなったらやりたいものになれるように頑張ろうね！ まだやりたいものが決まっていない子もカバさんみたいに、ぼちぼちでいいとお兄さんは思ってい るよ。みんなが大きくなるのを楽しみにして、今日のブックトークを終わりたいと思います。 ありがとうございました。</p>

以上の発表を終えて、学生は①発表者と②聞き手（年長児役）の二つの視点から感想を次のように記した。

<p>学生 A</p>	<p>①発表者として 本と本をつなぐことが難しく、けっこう一方的に進めてしまった。ブックトークを通してたくさん本を手に取り、自分も改めて本と親しむことができた。また自分が保育者になった時に、新しく考えブックトークをしてみたいなと思った。</p> <p>②聞き手として 今回は年長さん向けのブックトークでしたが、物語だけではなく、絵をみて楽しんだり、考えたりできる絵本があると、よりいっそう興味関心をもって聞くことができるなと思った。みんなのブックトークを聞いていてとても楽しかった。</p>
<p>学生 B</p>	<p>①発表者として 絵本を選ぶときどんな本を読んだら子どもたちは色に興味を持ってくれるのかや色とものの一貫ができるのかなどを考えながら選ぶことは少し難しかったし色に関する絵本が少なくて探すのが大変だった。しかし、たくさん本を見ていろんな本があることに気づけた。友達の前でブックトークをしたときは、緊張したけどやり遂げることが出来た。本と本の間をつなぐ言葉かけが難しかった。</p> <p>②聞き手として 友だちのブックトークを聞いての感想は、本のつなぎ方が上手な人と本の読み方が上手で本の世界に入りそうな人と声掛けが上手な人がいた。声掛け一つで子どもたちの絵本に対する興味は変わるので参考になりたいと思った。</p>
<p>学生 C</p>	<p>①発表者として ブックトークをしてみて、自分が知らなかった本をたくさん開くいい機会だったと思った。ブックトークをしなかったら絵本をあんまり探したり開いたり読んでみたりしなかっただろうなと思った。またテーマに沿って本を探さないといけないということでこの絵本が何を伝えようとしているのか、などきちんと絵本を読まないと感じられないので難しかった。しかしブックトークをしてみるとその努力がしてよかったと感じられる気持ちになった。自分が伝えたい本を相手に伝えた時の反応や読んでみたい！面白い！と言われてとても嬉しかったです。お話しとは違うブックトークを体験してみてとてもいい経験になった。</p>
<p>学生 D</p>	<p>①発表者として 私は、授業を通して初めてブックトークに挑戦した。最初は、好きな絵本を取り入れたい気持ちが大きく、繋げる為の動物の絵本を探していた。しかし、いろいろな絵本を見る中で全く違うテーマに変えた。様々な絵本を見たことで、自分の視野が広がるきっかけになった。これまで、絵本を選ぶときには、どうしても絵が描かれているものを選びがちであったが、今回はあえて全て写真を用いた絵本を選んだ。見てくれた皆の反応も良く、絵本に出てきた食べ物に興味を持ってくれたので、とても嬉しかった。子ども達にも実際に紹介したいと思った。</p> <p>②聞き手として みんなのブックトークを聞いて、それぞれいろんな視点で絵本を選んでいて、とても面白く、絵本選びの参考になった。Aさんは、普段の子ども達の遊びの様子から連想しているところが素晴らしいなど思った。へんしんをテーマに忍者ごっこのように展開していたところが楽しかった。Bさんは色をテーマにしており、詩的な絵本の文が印象的だった。伝えたいこともしっかり伝わった。Cさんは、仕掛け絵本を用いていて、面白かった。仕掛け絵本は、全体に読み聞かせることはとても難しいと思った。しかし、持ち方や見せ方を工夫しており内容も素敵だった。E君が最後に読んでくれた絵本がとても印象に残った。E君はシナリオもしっかりしていて、絵本と絵本の繋ぎ方など、トークも流石だなと思った。</p>
<p>学生 E</p>	<p>①発表者として ブックトークをしてみて、絵本の表現の仕方の幅が広がった。絵本を一冊読むだけでなく繋がりを意識することで、よりその絵本の魅力が発揮されたり、その絵本の新たな一面を発見できたりした。また、子どもたちが絵本に興味を持つきっかけになり、身近に感じることもできるのではないかと考えた。今回、ブックトークを考えるにあたって多くの絵本に触れ合うことができマイ絵本も見つかり、読み手にとっても絵本に触れ合ういい機会になった。</p>

IV 研究の振り返りと考察

絵本を中心とした児童文化財の学びの集大成として幼児向け絵本のブックトークを「児童文化研究」の課題として取り入れた。学生の感想を見ると、「たくさんの本を手に取り」「いろんな本があることに気づけた」「ブックトークをしなければあんなに探したり開いたりみたりしなかった」「テーマに沿って本を探さないといけないのでこの絵本が何を伝えようとしているのかきちんと読む必要があった」「視野が広がった」「1冊読むだけでなくつながりを意識することでよりその絵本の魅力が発揮されたり、その絵本の一面を発見できたりした」とある。

本科でのおはなし会の実践と比較して、ブックトークの発表は次のような特徴が見受けられた。

- ① よりテーマ性が強い内容となった。おはなし会のテーマは季節や行事、お誕生会など楽しいものが多いが、今回の学生の発表を見ると、「気持ち」「今子どもたちの中で流行っていることを元に」「仕事・将来の夢」「色による連想」「形、視点など物の見方」といったインターンシップ先で実際の幼児たちと触れる中で生まれた深いテーマを設定することができたように思う。
- ② 自分でテーマを設定し、絵本を探る中でこれまで知らなかったさまざまな絵本に出会うことができた。広く浅くではなく広く深く絵本の伝えたいことを考えるきっかけとなった。最初から最後まで一人で進むため、比較的テーマを流動的に変えることもでき、より広くより深く絵本を知ることができたように思う。
- ③ 本と本との間をつなぐ言葉（シナリオ）を考えることでより幼児にわかりやすい言葉を考えるきっかけとなる。

今回はブックトーク発表そのものよりも、テーマ設定、選書、つなぎの言葉を考えるという過程を大事にしたい旨をⅡの章で書いた。選書は学生は授業以外の時間にも各自行ったが、最終的には集中講義の時間を使い全員で行った。選書でつまずいたり、迷ったりした際に互いにアドバイスをしあったり、筆者が声をかけることで新しいテーマと出会ったり、視野が広がるきっかけとなる姿を見ることができた。

このようにプロセスを重視することはよかった。しかしながら授業の中では幼児向け（年長児）のブックトークを想定しているにもかかわらず、実際の想定年齢の子どもたちの前で実践できる場は残念ながらなかった。今後は可能ならば学生がお世話になっているインターンシップ先の幼稚園、保育園に早めに相談し、対象年齢の子どもたちの前での発表を行えればと思う。

〈謝辞〉

実際に佐世保市立図書館に赴き司書の話やブックトークを聞いたことにより、学生は今後さまざまな児童文化財を保育に取り入れる際の大きなヒントを得たように思う。図書サービス面でも心の面でも図書館が強い味方になるということをも身をもって知ることができた。佐世保市立図書館および司書の佐志純子氏には心よりお礼を申し上げたい。

参考文献

- 『ブックトークのきほん ー21の事例つき』 東京子ども図書館編 2016
『いつでもブックトーク ー構想から実施まで8つのポイントー』 北畑博子著 連合出版 2001